

2025年3月期 第1四半期(FY2024 1Q) 決算概要

2024年7月29日

千代田化工建設株式会社

(証券コード: 6366)



© Chiyoda Corporation 2024, All Rights Reserved.

説明者



代表取締役 社長
太田 光治



代表取締役専務執行役員 CFO
出口 篤



AGENDA:

1. 決算発表のポイント
2. ゴールデンパスLNGの状況
3. 損益計算書
4. バランスシート
5. 受注高・受注残高
6. 2025年3月期予想
7. 主なトピックス

【付表1】完成工事高・受注残高内訳
【付表2】業績推移

Our SDGs Materiality



社会の“かなえたい”を共創する
Enriching Society through Engineering Value

1

CFOの出口です。

本日は決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。
2025年3月期第1四半期決算の概要について、資料に沿って、ご説明申し上げます。

1. 決算発表のポイント

決算のポイント

- 前年同期比、営業増益。遂行中案件(米国・ゴールデンパスLNGを除く)の進捗に加えて、完工案件でのリスク解消による採算の改善もあり、完成工事総利益は堅調に推移。
- 脱炭素技術の社会実装に向けた戦略的パートナーリング、大型蓄電池設備の受注、オープンイノベーションの一環としてのスタートアップ投資など、事業ポートフォリオ革新に向けた取り組みが加速。

ゴールデンパス LNGの状況

- 顧客、CIC社、Zachry社、CB&I社の4社がZachry社のプロジェクトからの離脱に関して基本合意。裁判所が合意書を暫定承認。CIC社とCB&I社により建設工事を再開する見通し。
- 8月中に予定されている裁判所の同合意書の最終承認後に、Zachry社がプロジェクトから正式に離脱予定。
- CIC社とCB&I社の新体制下での遂行プランについて、顧客、CB&I社と継続して協議中。早期のEPC契約の改定・合意を目指す。

業績見通し

- 2025年3月期予想は、Zachry社のゴールデンパスLNGプロジェクトからの離脱後、新JV体制下での遂行プランに合意した場合の影響を含まない前提で合理的に算出。
- 今後、斯かる影響を反映した同プロジェクトの損益算定が可能となった段階で、業績予想の開示基準に基づき、その修正を実施し、速やかに公表する方針。

* Chiyoda International Corporation (千代田化工建設の米国100%子会社)



2

まず、右下2ページ、「1. 決算発表のポイント」をご覧ください。

一点目は、第1四半期決算のポイントです。

当第1四半期は、前年同期比、営業増益となりました。米国ゴールデンパスLNGを除く遂行中案件の順調な進捗に加えて、完工案件でのリスク解消によるコスト取り崩しが採算の改善に寄与し、完成工事総利益は堅調に推移しました。

二点目は、ゴールデンパスLNGの状況です。

現地時間7月25日、顧客、当社CIC社、Zachry社、CB&I社の4社がZachry社のプロジェクトからの離脱に関して基本合意し、裁判所より合意書の暫定承認がなされました。これにより、CIC社とCB&I社による建設工事が再開する見通しです。

三点目は、業績見通しに関してです。

前回の決算発表時点では未定としていた通期連結業績予想を公表いたしました。今回の通期連結業績予想は、Zachry社のゴールデンパスLNGプロジェクトからの離脱、並びにそれを受けて当社グループが顧客との新たな遂行プランを合意した場合の影響を含まない前提で合理的に算出した数値です。今後、斯かる影響を反映したプロジェクトの損益算定が可能となった段階で業績予想の開示基準に基づき、必要に応じてその修正を実施し、速やかに公表する方針です。

2. ゴールデンパスLNGの状況

- 6月26日 ● ✓ 2024年3月期決算発表
(Zachry社のChapter 11(現地時間5月21日)に関する裁判所の審理が継続中、
存在する合意文書を踏まえた契約金額および十分な費用を考慮して、決算を確定)
- 7月25日
(現地時間) ● ✓ 顧客、CIC社、Zachry社、CB&I社の4社がZachry社のプロジェクトからの
離脱に関して基本合意。裁判所が合意書の締結を暫定承認。
CIC社とCB&I社により建設工事を再開する見通し
- 7月29日
(本日) ● ✓ 2025年3月期第1四半期決算発表
- 8月中 ● ✓ 裁判所が同合意書の締結を最終承認、Zachry社が正式にプロジェクト
から離脱予定
- 第2四半期
~
第3四半期 ● ✓ CIC社、CB&I社の新JV体制下での短期的な遂行プランおよび
完工までの長期的な遂行プランに顧客と合意の上、採算の見直しを実施し、
自己資本の回復を目指す

続いて、右下3ページ、「2. ゴールデンパスLNGの状況」では、直近の状況を纏めております。

前ページの内容と重複するため、説明は割愛いたします。

3. 損益計算書

(単位:億円)

	FY2023 1Q	FY2024 1Q	増減
完成工事高	1,294	1,170	△124
完成工事総利益	84	108	24
完成工事総利益率	6.5%	9.2%	+2.7pt
販売費・一般管理費	△33	△44	△11
営業利益	51	64	13
経常利益	65	55	△10
純利益 ^{*1}	49	40	△9
為替レート(円/米ドル)	145	161	

1 分野別内訳

✓ 完成工事総利益

分野	FY2023 1Q	FY2024 1Q
エネルギー	32	61
地球環境	52	48
合計	84	108

*1 親会社株主に帰属する当期純利益



4

続きまして、右下4ページ、「3. 損益計算書」をご覧ください。

第1四半期の実績を表の濃い水色の列で、前年同期対比の増減を、その右列にお示ししています。

第1四半期の完成工事高は1,170億円、前年同期に比べ、マイナス124億円の減収となりました。

完成工事総利益は108億円、前年同期比24億円の増加です。

完成工事総利益率は9.2%で、前年同期比2.7ポイント改善しています。

販売費・一般管理費は44億円、前年同期比11億円の増加です。

営業利益は64億円、前年同期比13億円の増加です。

経常利益は55億円、前年同期比10億円の減少です。

純利益は40億円で、前年同期比9億円の減少です。

なお欄外に注釈をいれておりますが、完成工事総利益の分野別の内訳は、エネルギー分野が61億円、地球環境分野が48億円となりました。

4. バランスシート

(単位:億円)

	FY2023 4Q	FY2024 1Q	増減		FY2023 4Q	FY2024 1Q	増減
流動資産	4,044	3,926	△117	流動負債	4,122	3,953	△168
現金・預金等	1,021	1,080	59	1年内返済予定の 長期借入金	200	200	-
短期貸付金	662	700	38	営業負債 ^{*3}	3,225	3,071	△154
営業資産 ^{*1}	465	340	△124	工事損失引当金	365	352	△13
JV持分資産 ^{*2}	1,470	1,354	△117	固定負債	87	96	8
固定資産	226	223	△3	純資産	61	101	40
総資産	4,270	4,149	△120	負債・純資産	4,270	4,149	△120
				自己資本	49	86	38
				自己資本比率	1.1%	2.1%	0.9pt

(注)

2027年7月末を期限として、借り換えを実施
(2024年7月24日「株式会社三菱UFJ銀行との融資契約に関するお知らせ」)

*1 営業資産＝受取手形・完成工事未収入金及び契約資産＋未成工事支出金
*2 JV持分資産＝ジョイントベンチャーにおける当社持分に相当する現預金
*3 営業負債＝支払手形・工事未払金＋契約負債(未成工事受入金)



5

次に、バランスシートをご説明します。
右下5ページのスライドをご覧ください。

自己資本は、前期末比38億円増加し、86億円となり、自己資本比率は2.1%となりました。

なお、連結ベースで現預金及び短期貸付金で1,780億円を有しており、当社の業務運営には支障はございません。

5. 受注高・受注残高

(単位:億円)

	FY2024 1Q 受注高	FY2024 1Q 受注残高
エネルギー分野	57	7,164
地球環境分野	184	2,342
合計	242	9,506

【受注残高 主要案件】

	1,000億円以上	500億円以上	50億円以上
エネルギー分野	カタール・NFE LNG	米国ゴールデンパスLNG	---
地球環境分野	インドネシア銅製錬	---	CO ₂ メタネーション設備 バイオ医薬品原薬製造設備 先端素材生産設備 蓄電池設備

続きまして、右下6ページ「5. 受注高・受注残高」をご覧ください。

当第1四半期の受注高は242億円、受注残高は9,506億円を確保しています。

受注残高の主要案件はスライド下部の表をご覧ください。

6. 2025年3月期予想

(単位:億円)

	FY2024 通期予想
完成工事高	4,500
完成工事総利益	330
完成工事総利益率	7.3%
販売費・一般管理費	△160
営業利益	170
経常利益	200
純利益 ^{*1}	150
受注高	2,500
為替レート(円/米ドル)	150

(注)

Zachry社のゴールデンパスLNGプロジェクトからの離脱後、新JV体制下での遂行プランに合意した場合の影響を含まない前提で合理的に算出した数値です。

今後、斯かる影響を反映した同プロジェクトの損益算定が可能となった段階で、業績予想の開示基準に基づき、その修正を実施し、速やかに公表する方針です。

*1 親会社株主に帰属する当期純利益

CHIYODA
CORPORATION

7

続きまして、右下7ページ「6. 2025年3月期予想」をご覧ください。

完成工事高は4,500 億円です。

引き続き、カタールNFE LNG、インドネシア銅製錬など主要案件の進捗が寄与します。完成工事総利益は330億円、完成工事総利益率は7.3%です。

販管費は160 億円です。

営業利益は170 億円、経常利益は200億円、純利益は150 億円です。

受注高は、2,500 億円です。

以上、決算数値をご説明いたしました。

7. 主なトピックス - 脱炭素分野

◆ 三菱重工業(株)とCO₂回収技術ライセンス供与に関する協業契約を締結

- ✓ 三菱重工業(株)との戦略的協業
- ✓ 国内案件を対象として、多数の実績を有する同社のCO₂回収技術ライセンスを当社に供与するもの
- ✓ 本協業を通じて、需要拡大が見込まれる国内CCUS¹⁾市場への対応力強化、および幅広い産業分野の脱炭素化ニーズへの貢献を図る

(両社幹部集合写真)



(写真左)三菱重工業(株)GXセグメントセグメント長代理 長安立人
(写真右)当社 専務執行役員 小林直樹

◆ 【世界初²⁾】“より”サステナブルなポリエステル繊維向けサプライチェーン構築

- ✓ 当社のCCU³⁾技術を活用したパラキシレン及びリニューアブル・バイオ原料などの非化石資源からポリエステル繊維を製造
- ✓ 上流(原料・素材製造)から下流(アパレル)まで5ヶ国7社が協業し、サプライチェーンの低炭素化に貢献
- ✓ (株)ゴールドウインのブランド「THE NORTH FACE」でのスポーツユニフォーム等で採用



*1 Carbon dioxide Capture, Utilization and Storageの略。二酸化炭素回収・有効利用・貯蔵

*2 二酸化炭素から直接合成により製造されたパラキシレンの試験品を利用している点、及び、非化石由来のポリエステルを製造する際にサプライチェーン上流の原料・素材製造企業及び下流のアパレル事業者が協業した点を「世界初」としています。(7社頭へに基づ)

*3 Carbon dioxide Capture and Utilizationの略。二酸化炭素回収・有効利用

続きまして社長の太田より、「主なトピックス」をご紹介します。

事業ポートフォリオ革新に向けた取り組みが進んでおり、直近での案件をご紹介します。

まず、右下8ページは、「脱炭素分野」です。パートナーングを通じた脱炭素技術の社会実装の事例として2件をご紹介します。

1件目、今年5月に三菱重工業とCO₂回収技術ライセンス供与に関する協業契約を締結しました。

三菱重工業とのパートナーングは、CCUSの需要拡大が見込まれる国内市場において、当社のCCUS案件への取り組み強化を目的としております。

三菱重工業は、CO₂回収技術のライセンサーとして世界の市場をリードする企業であり、提携を通じて両社の強みを生かすことで、幅広い産業分野の脱炭素化ニーズへの貢献を図ります。

2件目は、世界初の非化石資源由来のポリエステル繊維製造サプライチェーン構築への参画です。

当社のCCU技術を活用し製造したパラキシレンや、その他のリニューアブル・バイオ原料からポリエステル繊維を製造するもので、5ヶ国7企業が協業し、サプライチェーンの低炭素化に貢献します。

製造したポリエステル繊維は、ゴールドウインのブランド「THE NORTH FACE」でのスポーツユニフォーム等で採用されています。

7. 主なトピックス - エネルギーマネジメント事業

◆ (株)ニジオ^{*1} 向け 大型蓄電池設備設置工事を受注

- ✓ 再生可能エネルギーの導入拡大に向けて、電力需給バランスの安定化や出力変動といった課題解決のため、蓄電池の活用が求められている
- ✓ 当社の世界最大級の蓄電池設備の建設実績が高く評価された

[概要]

所在地	大分県大分市角子原
蓄電池出力/容量	25MW/50MWh
着工時期	2024年5月
事業開始時期	2026年度(予定)

[完成イメージ] Google Mapおよび国土地理院の地図データをもとに当社作成



^{*1} 東京ガス株式会社の100%子会社
^{*2} Energy Management System の略

◆ 地域マイクログリッド構築に貢献

- ✓ 東急不動産(株)から受注した北海道松前町での「地域マイクログリッド」の構築業務が完了し、運用を開始
- ✓ 災害で大規模停電が発生した際、既存の送配電網から切り離れた上で、地域内で発電した再生可能エネルギーや蓄電池から電力を供給
- ✓ 松前町の役場、避難所、一部の一般家庭で安定して電力を利用することが可能となる

[当社が目指す地域エネルギーマネジメントのイメージ図]



CHIYODA CORPORATION

9

右下9ページは、エネルギーマネジメント事業です。

1件目、東京ガスの100%子会社である株式会社ニジオから、大型蓄電池設備設置工事を受注しました。

再生可能エネルギーの導入拡大に向けて、電力需給バランスの安定化や出力変動といった課題解決において、蓄電池の活用が求められている中、当社の世界最大級の蓄電池設備を早期に完工した実績が高く評価され、受注に至りました。

2件目、東急不動産から受注した北海道松前町での「地域マイクログリッド」の構築業務が完了し、運用を開始しています。

災害で大規模停電が発生した際、再生可能エネルギーや蓄電池から電力を供給するもので、地域におけるレジリエンスの強化と脱炭素・低炭素化への取り組みを続けていきます。

7. 主なトピックス - オープンイノベーション／金属分野

◆ (株)センシンロボティクスとの資本業務提携関係を構築 [オープンイノベーション]

- ✓ 産業分野でのロボティクスとAIの活用による業務効率化と高度化に向けた協業
- ✓ プラント操業の現場における人手不足の課題に対して、両社のインフラ保全領域での技術力を組み合わせ、最新技術を用いた新たなソリューションを共創



◆ DNX Ventures 第4号米国ファンドへの出資を決定 [オープンイノベーション]

- ✓ グローバルなスタートアップ企業との事業共創やDNXの支援プログラムを通じ新規事業開発を促進
- ✓ サステナビリティやデジタル領域の最新技術を活用して社会課題の解決に取り組む



◆ インドネシア銅製錬プロジェクト [金属分野]

- ✓ 単一製造ラインとして世界最大規模となる銅製錬工場のEPC業務
- ✓ 建設工事が最終局面を迎えており、2024年中の完工を見込む
- ✓ 本件を通じて、脱炭素社会に必要な銅資源の供給拡大に貢献

[建設現場の様子]



Courtesy of P.T. Freeport Indonesia



10

右下10ページは、オープンイノベーション及び金属分野についてです。

スライド左上、産業分野における業務効率化と高度化を目指した資本業務提携を業務ソリューション開発を行うスタートアップ企業であるセンシンロボティクス社と結びました。プラント操業の現場における人手不足の課題に対して、ロボットやドローン、AIなどの最新技術を用いた新たなソリューションの共創を目指します。

スライド左下は、オープンイノベーションによる事業変革の加速に向けた投資案件です。米国のDNX Venturesが運営するファンドへの出資を実施しました。サステナビリティやデジタル領域の最新技術を活用し、社会課題の解決に取り組むことを目指していきます。

最後は、インドネシアで遂行中の銅製錬プロジェクトです。単一製造ラインとして世界最大規模となる銅製錬工場のEPC業務は、建設工事が最終局面を迎えており、今年中の完工を見込んでいます。

【付表1】完成工事高・受注残高内訳

(単位:億円)

FY2024 1Q 完成工事高

【分野】

エネルギー	714	61%
■ LNG・その他ガス関係	673	58%
■ 石油・石油化学	41	4%
地球環境	456	39%
■ 医薬・生化学・一般化学関係	38	3%
■ 環境・新エネルギー・インフラ他	418	36%
合計	1,170	100%

【地域】

海外	1,024	88%
■ 中近東・アフリカ	582	50%
■ 北中南米	56	5%
■ アジア・オセアニア	384	33%
■ その他海外	2	0%
■ 国内	146	12%
合計	1,170	100%

FY2024 1Q 受注残高

【分野】

エネルギー	7,164	75%
■ LNG・その他ガス関係	6,845	72%
■ 石油・石油化学	320	3%
地球環境	2,342	25%
■ 医薬・生化学・一般化学関係	972	10%
■ 環境・新エネルギー・インフラ他	1,369	14%
合計	9,506	100%

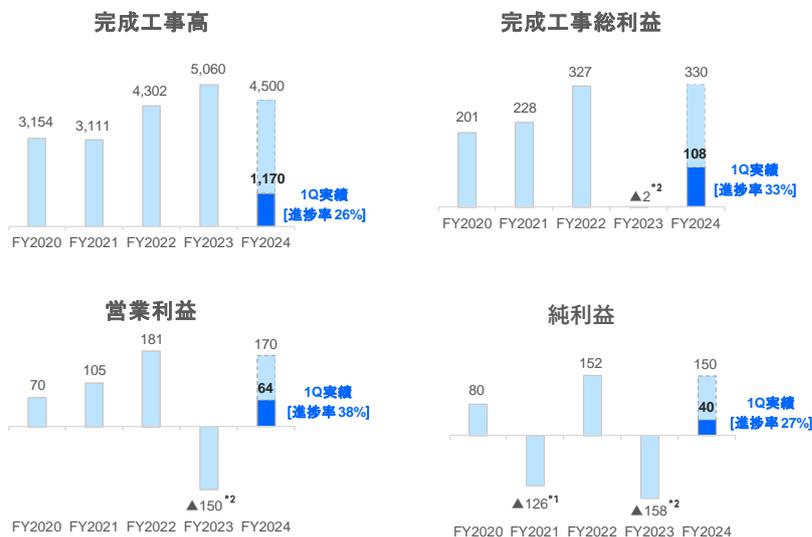
【地域】

海外	7,899	83%
■ 中近東・アフリカ	5,643	59%
■ 北中南米	942	10%
■ アジア・オセアニア	1,301	14%
■ その他海外	14	0%
■ 国内	1,607	17%
合計	9,506	100%

右下11ページは、当第1四半期の完成工事高、受注残高の分野別、地域別の内訳です。

【付表2】業績推移

(単位: 億円)



*1 特別損失 ▲204億円含む(顧客との和解等によるプロジェクト関連損失)
*2 ゴールデンパスLNGプロジェクトに関連する追加費用▲370億円含む

CHIYODA CORPORATION

12

右下12ページは、2021年3月期以降、過去4年間の業績推移、及び当期の通期予想と第1四半期の進捗をグラフで一覧にしています。

以上で決算概要の説明を終わります。

この資料には、事業戦略・本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみによって投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

【お問い合わせ先】
千代田化工建設株式会社
総務部 IR・広報・サステナビリティ推進セクション
E-Mail: ir@chiyodacorp.com

